



大地申
第9号

「駅業務執行体制の見直しについて」に関する解明交渉開催！その2

2. 施策実施以降、新幹線業務を担う人材育成及びホームの安全確保についての考え方を明らかにすること。

回答：必要な教育を実施し、安全を確保していく。

《交渉議事抜粋》

組：当務駅長を担う人材育成の方法はこれまでと変わらないか？

会：変わらない。

組：営業職に対しての人材育成はどのようにやっていく？

会：運転取扱い業務の教育は不要。各駅の教育項目がある。

組：職場では具体的な教育項目が示されていない。

会：各駅で見習い記録簿がある赤色旗の取扱い抑止のやり方、放送マニュアル等の教育を定めており、これまでと変わるものではない。

組：ホーム業務を担う上で教育の基本はあるのか？

会：最低限の共通項目は営業部の運転指導Gから通達を出している。

組：営業社員から不安の声が上がっている。運転取扱い業務が分からないので教育をしっかりやってほしい。安全確保についてはどうか？

会：必要な教育はしていく。安全レベルが下げない。運転取扱い業務は資格を持った人しかできず、営業職がやってはならない。依頼があってもしっかり断ることが大切。

組：他支社の事象ではあるが、指令が指示をして資格のない社員がATOSを扱ってしまった事象がある。同事象が発生してしまうのではないかと？指令にも現場の状況を周知していただきたい。

会：合図が表示が変わって資格がなくていいことは周知されている。出来ないのにやってしまうことが無いようにしていく。出来る業務を明確にしておく。

組：安全確保についてだが、異常時にローピングが急遽変わる。3分の遅れでも間に合わないときもある。警備員の増員やITVの視認性を良くしていただきたい。

会：安全レベルが下がるとは思っていない。必要な対策はしていく。

組：営業職への教育は、運転取扱いの資格を持った人が教えていくが、この先営業職が営業職を伝えていくことはあるのか？

会：スタートは運転取扱い従事者が教える。しかし、その先には営業職が営業職を教えることが出てくると思う。

組：新幹線業務の変革の中で専門性に特化していくことが言われている。しかし、横断的な体制になる。専門性からすると薄まるのではないかと？

会：これまでも新幹線ホーム業務の教育についてはやってきている。薄まることはないと感じている。

組：営業職は現場のOJTで様々な事を学んでいくという事で良いか？

会：基本の教育項目と合わせて駅の特情を踏まえてやっていく。